

## 令和7年度第1回香南市総合教育会議

1 開催日時 令和7年7月2日(水) 午前10時～

2 開催場所 本庁舎 6階 会議室604・605

### 3 議題

- (1) ジェンダーレス制服について
- (2) 野市町内の校区の現状について
- (3) 中学校の部活動の地域移行について
- (4) その他

### 4 出席委員

教育委員	百田 久範
教育委員	中元 啓恵
教育委員	森本 美穂
教育委員	亀川 孝志
教育長	三木 守
香南市長	濱田 豪太

### 5 説明のため出席した者の職氏名

教育次長	坂本 充子
学校教育課長	小松 昌司
生涯学習課長	山崎 正博
こども課長	猪原 加江

### 6 事務局職員の職氏名

総務課長	北村 浩司
------	-------

7 傍聴者 2名

### 8 議事の経過の概要

次のとおり

○北村総務課長

ただいまから、令和7年度第1回香南市総合教育会議を開催いたします。本日、司会進行を務めます総務課の北村です。どうぞよろしくお願いいたします。それでは会議の開催に当たりまして、市長よりご挨拶を申し上げます。

○濱田市長

本年度の第1回総合教育会議ということでお集まりいただきまして誠にありがとうございます。本当はもっと回数を増やしたいところですけど、なかなか私自身も時間が取れず、年1、2回ぐらいは提言ということで大変恐縮ですが、昨年度は、8月の南海トラフ臨時情報等もございまして、我々、市長部局のみならず教育委員会もこれまでになかった局面というものがございまして、いろいろなところでもう一段階、我々自身が自然災害等にどう向き合っていくのか、また、どう対応していくのかということが問われた年度だったのではないかと思います。そういったことも含めて教育委員の皆様、教育委員会には様々なことでこれまでなかったことがあった。また、今年度も災害はいつ来るか分からないということは当然でありますし、今年は、特に梅雨も終わり、水不足、そして、異常気象による、これもまた一つの自然災害になると思いますが、それが教育の場でどのような影響があるのかということも考えていかなければならないのではないかと考えています。そういった意味においても、我々、市長部局と教育委員の皆様、教育委員会とが、こういう議論ができる総合教育会議を非常に大切にしたいと思っておりますので、御協力のほどよろしくお願いいたします。よろしくお願いいたします。

○北村総務課長

それでは次第に沿って議事を進めさせていただきます。まず一つ目、ジェンダーレス制服についてということで、学校教育課は現状の説明をお願いします。

○小松学校教育課長

資料がお手元にあると思いますが、各中学校の現状をお示ししたいと思います。令和6年度の第1回香南市総合教育会議において、ジェンダーレス制服について協議、検討もなされました。市長からの思いもお聞きし、誰もが選択してありたい自分の服装で登校することができる環境を整えられるように、校則の見直しも含めて検討を進めています。市内4中学校の昨年度からの取組の報告ですが、状況はここに示しているとおりです。今年度、香我美中学校と赤岡中学校が新しい制度を導入してスタートしています。導入実績ということでは、1年生はほとんどが導入し、2、3年生は香我美中学校の方は導入ありませんが、赤岡中学校では海外から転入してきた制服を持っていないお子さんが新しくこちらを購入したということで、ブレザー、ズボン、スカートという形でスタートしています。続いて、夜須中学校と野市中学校は令和8年度からの導入できるようにということで、生徒会を中心に、学校運営協議会やPTAを巻き込みながらスケジュールのとおり進めて、令和8年度から令和10年度の3か年間を移行期間として進めていきます。香我美中学校、赤岡中学校もそうですが、夏服のポロシャツを併せて導入しているというのが共通しているところです。ジェンダーレス制服のねらい等はここに示していますが、性別関係なく自由に着用できる制服ということで進めており、制服の導入で終わるのではなく、日頃から、ジェンダーレスに関する学習を

実施し、男性だから、女性だからといった性別を理由に固定的な役割や意識を取り除き、ジェンダー平等や多様性を配慮した取組につなげていく必要があると考えています。

○北村総務課長

ありがとうございました。それでは市長の方からお願いします。

○濱田市長

昨年、私も、お話をさせていただきましたが、自由に選べるというのが進んでいるということが分かりました。それと、この中で、従来の制服と今回のこの新しい制服で購入する金額というのはどれぐらいの違いがあるのか。

○小松学校教育課長

現在の制服よりは安価ということを知っていますが、具体的に幾ら安いということは、今、手持ちがないので把握しておりません。安く購入できるということです。

○濱田市長

新しくなるので値段が高くなるというイメージがあるので、そういうところも周りから見たとき、保護者が聞いたときに高くなるのではないかとすることは、一定、心配されてはいたけれど、そこはないということではいいですね。そしたら、移行期間が3年ということで聞きましたが、3年後からは全てこの新しい制服になるということでよろしいでしょうか。

○小松学校教育課長

令和8年度から令和10年度までの3年間は移行期間ということですので、そういうことだと考えています。また、1年生はほとんどが購入しますが、おさがりをいただくこともあるので、全部、把握してないところがありますが、今は追加制服なので、その後全て同じ制服にしていきたいという思いがあると思います。

○濱田市長

追加ということは、いわゆる従来の制服があってそれに新しいものが追加という、そのうち、どちらでもいいというのが基本的には、あと3年。8、9、10年度ということで、例えば、うちは今、中2と小5の子がいるので、上の子の制服をずっと着続けて、全員同性で、その下にもう一人いますので、だから、それをどこかのタイミングで変えるという、そのところが学校が判断するのか教育委員会で判断するのか、今のところどうですか。

○小松学校教育課長

学校が決めますが、生徒会中心に子どもや保護者の意見も聞きながら、学校運営協議会等で検討しながら進めているというような状況です。

○濱田市長

実際に、このことで反対というか、そういう学校運営協議会や他の外部でもいいですが、そういう

の声というのはあるのでしょうか。

○小松学校教育課長

新たな導入でお金がかかるというところも心配される親御さん、これから入学するという保護者の方からの心配の声、いつから変わるのか、先輩にもらう予定になってるいるが新しいものを買わなくてはいけないのかということで心配されるお子さんなんかもあります。だから、この8年から10年の移行期間というのを学校も設けているのかなと思っています。

○三木教育長

この資料を見ると、香我美中学校、赤岡中学校も移行期間。

○小松学校教育課長

香我美中学校と赤岡中学校は今年からスタートしています。

○三木教育長

来年4月の新入生から全員これでなくてはいけないのか。

○小松学校教育課長

赤岡中学校と香我美中学校は追加制服なので、これでなくてはいけないということではない。

○三木教育長

市長が聞いたのは追加なのか、完全移行なのか。完全移行と書ききっているのは夜須中学校と野市中学校は移行と書ききっているが、あくまでも追加で何年先でもお兄ちゃん、お姉ちゃんの制服をとというご家庭があって、それが認められるのは香我美中学校、赤岡中学校という資料になっている。全部の学校が完全移行ではないですね。

○小松学校教育課長

そこは確認してないので、学校に確認しないと、いつから完全移行なのかという、期限というのは全ての学校に確認しないと分からないところです。

○北村総務課長

ありがとうございました。そしたら委員の中からご意見いただきたいと思いますが、どなたかおいでますでしょうか。

○亀川委員

説明をお聞きして、各校、非常に積極的に取り組んでくださってるというふうに思います。市長も言われていましたけど、値段が私も上がるのではないかと考えていたが、そこが安く済むというところが非常に導入しやすかった点でもあろうかというふうに思います。学校がその分、積極的に推進をしてくださったのだと思います。野市中学校の備考欄にもありますが、制服を変えただけでは駄目で、生徒のジェンダーレスへの人権意識を変えていく必要があるというふうなコメントが出ています

けど、非常に頼もしく思いますし、そのとおりだなというふうに思いますので、これから先、制服に終始するのではなく、生徒のジェンダーレスへの人権意識という点で取り組んでいていただきたいなというふうに思います。

○北村総務課長

他にございますでしょうか。

○百田委員

香我美中は今年からで校長に聞いたが、2名の子がお兄ちゃん、お姉ちゃんのお古を今年は着ていると。来年、再来年どうするかは、ご家庭の様子ではないかと思えます。導入に当たって、保護者からこれといった反対の意見はなかったということもお聞きしている。それと、やはり学ランとセーラー服にいろいろ思っている人もいたのではないか。そんな中で、制服は来年度から順次、変わっていくと思えますけれども、それと、ユニバーサルデザインも含めて、水着や夏のポロシャツとか、いろんなところでも、また検討の余地があるのではないかと考えています。

○北村総務課長

ありがとうございます。他に。

○中元委員

ジェンダーレス制服が、昨年の総合教育会議でも議題に上がって、1年経ってしっかりと積極的に前を向いて進んでいるということが本当に頼もしいことだと思います。野市中学校のコメントにもあるように、制服だけ変えても駄目、やはり生徒のジェンダーレスへの人権意識を変えていく必要があるというのが、これが一番大きいことで、制服が変わった、今までのセーラー服や学ランではないということが楽しかったり、選択できる喜びがあったりすることだけではなくて、やはり、そこへつなげていけるようなやり方というのに取り組んでいただきたい。

私、男女共同参画の委員もさせていただいていますが、その中の後期の策定をするに当たって市民の皆様アンケートをとった際に、「男女平等であると思う場面はどこですか」という問いの中に、学校生活というのは42.3%と大変、高い数字で、市民の皆様は感じていらっしゃるので、学校の中でそういった意識づくりをしているということも、また積極的にアピールしていただいて、今から先の香南市を担う子どもたちですので、そういったところがいわゆるアンコンシャスバイアス、無意識の思い込みで、男の子だからこう、女の子だからこうということにならない教育というものを、現場でしっかりとしていただきたいと思えます。

一点、質問させていただきたいのですが、制服だけではなく、制服が変わると学校の校則というものも当然変わっていくと思えますが、校則の見直しも含め、検討を進めているという文章がありますけど、校則の部分では、どの程度、何か変わった部分があるとか、依然だと女子の髪型はとか、男子の髪がなんていうものが随分昔はあったと思えますが、今、どの程度変更されている部分があるか、分かる範囲で教えていただきたい。

○小松学校教育課長

今、手持ちでは持っていないが、先ほどもポロシャツの導入とか、髪型についても、生徒総会でそ

ういう意見が出てくる中で、校則の見直しというのは、毎年行っているところです。具体的にどういうものというのは、今、手持ちに資料がありません。

○北村総務課長

ありがとうございました。他に。

○森本委員

先ほどの追加の期限などのお話で、私の意見としましては、移行期間があるということはもちろんいいことで、突然、今年から全員、買ってくださいと言われたら、市長のように、もう当然のように、次はこれを着ようと思って用意した方たちもたくさんおられると思うので、移行期間があるというのはいいことで、ただ、夜須中学校、野市中学校を見ましたら、生徒会、保護者、協議会なりで、しっかりと話し合っって移行期間をいついつまでにということをきちんと決めている。香我美中学校、赤岡中学校も、もちろん学校主体でいろいろ決めていると思いますが、もし、期間というのが今、定まっていないという状態であれば、やはり、これは考えていただいてというのが保護者たちにとりましても、3年後とかいうふうに予定に入れてた方が、何となくその後のトラブルになることも避けられると思いますので、そういったことが必要かと思いました。それと制服ですが、新しい制服の購入場所などは、今までと同じ経路といいますか、手段、同じ業者、今までは地域のお洋服屋であるとか、少し制服は買うのが面倒くさい経路がありましたけど、その辺りは分かりますか。

○濱田市長

だいたい南国市のカンコーとかに実際行っていますので、多分、そこだと思います。先日も修学旅行前に買いに行きましたので。

○森本委員

その辺りが固定の業者、ここだけとかではなく、なるべく保護者の方にとっても、買いやすいふうになっていけば、値段的にもいいなと思いました。

○濱田市長

先ほど、中元委員からもお話がありましたけど、やはり、今、県も、国も、当然、香南市もそうですが、人口減少をいかに止めるか、そして、また、その中で最大の課題とされているのが、若者、そして女性の都会への流出ということが、県も本当に危機感を持っているところではない騒ぎでやっていますし、いわゆる地方にいれば、そういう古い価値観というか、そういう考え方があるというのが、ある種、そこから逃れたいとかそういうところではないところに行きたいということで、やはり、特に若い女性であったり、若者が都会に出て行く傾向が強いというような、それをいかに食い止めるというか、それをいかに地方にいても都会と変わらないというか、当たり前前かが当たり前でいけるような社会であるということが非常に大切ですので、それを、私自身、個人的には子どもたちに、田舎にずっとお付き合いしてくれということも、何かこう自分の中ではどうだろうと思うことはありますが、やはり教育の中で、男女平等、男女のそういう差がない、そういう人権教育というものをしっかりとやっていただいて、それが当たり前だということが、これが、香南市のみならず広がっていけば、高知県にいても生きたいように生きられるというような社会になればなと思いますので、教育

委員会も当然そういうことを当たり前のこととしてやっていただいています、何卒また、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○百田委員

中学校の話で今まできたが、小学校は、今、制服は夜須小のみで、その辺りの動きはどういった感じになっているのか。

○三木教育長

P T Aの役員会とかそういった場に自分が座る話ではないが、本当に立ち話的な場面ではありましたが、保護者の間では小学校の制服について、もう制服をやめる方向での声が上がりに始めていて、どこかでは協議、話し合いがもうそろそろ必要かなとか、あるいはそれを決めていくに当たってどういうプロセスで決めていくことになるのかとかという話を伺ひ聞いたことはあります。現状がどこまでどういうふうになっているのか分からないですけど。

○森本委員

私も、夜須に子どもたちが通ってましたので、ただ、小学校を卒業して、もう3、4年経ちますので、現状が、P T Aの方たち、あるいは子どもたちがどういったご意見なのかというところは、はっきりとは申し上げられないですけど、当時も、もう何年にも渡りまして、高知県下で制服自体が珍しいということで、常に毎年、1人、2人、結構、制服ではなく普通の私服にしたいという方もいまして、当時は、時々、アンケートをとったりしておりました。今も、そういうことがあるのではないかと思います、保護者にアンケートをとりまして、子どもにも意見を聞きまして、どう思いますかということでは、毎回、このまま制服でいいですという方が多数決では多いという結果がずっと続いていますので、そうなりますと、皆さんがそれでいいということなのでということがずっと続いてきました。それが、これからもアンケートを続けることによって、いつかどこかで多数決がひっくり返ることはもちろんあると思ひます。皆さんおっしゃるのが、あまり人口が動いたりしない地域ですので、新しい方が来ると、不思議な感じを覚えるかもしれませんが、そこに住まれている人は、それに慣れてますし、中学校の制服と違ひまして、値段もそれほど値段でもなく、中に着るのはポロシャツです、それも1,000円ぐらいで買えるようなポロシャツですので、それもあわせて親も楽でいいと、そして、おさがりでもずっともう同じ制服なので、例えば、15年前の制服も同じなので、それでいいという方が今のところ多いということです。

○北村総務課長

この一つ目のジェンダーレス制服につきましては、様々なご意見をいただきましたので、以上でよろしいでしょうか。

そうしましたら、二つ目の野市町内の校区の現状についてということで、これも学校教育課の方から説明をお願いします。

○小松学校教育課長

資料2-2の地図があると思ひます。野市町の小学校区の概要図と、野市町内の校区の現状ということで、特にこの重複校区というものがあひまして、野市小学校区は黄色で示したところ、佐古小学

校区はピンク、野市東小学校区が青、この野市小と佐古小の重複区というのが緑のところになります。もう一つ、野市小と野市東小の重複区というのが赤の結構、広い範囲であります。というようなところが、この野市町の特徴的といいますか、ほかと違っているところで、今、野市小学校の人数が多いので、ここの重複区をどうするのかということも、一つ、課題でもあるのかと思うところです。

#### ○濱田市長

この議題を申し上げることになったのが、一つは、東幼稚園と東保育所が東こども園に変わりました、そこの保護者の方とお話する機会がございまして、そこで、やはり、今、野市保育所以外の保育所が全てそうだと思いますが、野市保育所に入りたかったけど、定員に入れず、東に入ったという方から、2歳、3歳から東保育所に入って、東こども園に入り、その間、年長までいることになる方々が、やはりこども園と小学校が近いので、多くの友達関係というものがある中で、例えば、野市町西野に住んでいる方も、東小学校にそのまま入りたいという希望があるが、なかなか叶えられないという話をお聞きしたもので、ある種、幼少期の友達、保護者も含めた人間関係ができていく中で、東小学校に入れなかったりするという現状があるというのが、一つのきっかけではあります。それと同時に、ご承知のとおり、この野市町はまだ開発されておりまして、住宅が建ち続けています。その多くが、若い世代の方々が来られていますので、そういった方々がこれから増えていく中において、野市小学校が、やはり非常に児童の数が多いということを含め、そして、もう一つは、高速道路が空港から、のいちインターがつながりましたので、今後、野市町内でも東の地区であったり、現東小校区になると、それほど影響はないかもしれませんが、野市町内でも東の近辺というところ、中学校の下まで含めて、そういったところが今後、例えば、宅地化をされていくようなことがあれば、更に野市小学校に通わざるをえないといいますか、野市小学校区内の子どもたちの数が増えていくことを考えますと、もうすでに重複しているところもありますが、例えば、聞くところによると、南国の大篠小学校だったと思いますが、そこは、大篠小校区から違うところに行く場合には行ける。ただ、他から大篠小に行くことはできないということがあると聞いていますので、野市小学校でしたら、この地図を見て分かりますとおり、例えば、この南の方のこの学校の校区でしたら東小に行くのも同じでありますし、野市中学校の下からと考えたら、東小学校が近かったりする中において、現状の人口分布なども踏まえた形で見直しというか、そういったことも一定必要ではないかと思ひまして、この場でお話をさせていただきましたが、実際、校区区というものはどういう基準で、どういうタイミングで変えるのかということをまず教えてください。

#### ○坂本教育次長

この校区自体を変更するということについては、教育委員会に諮って決めることとなります。

#### ○濱田市長

現状、それぞれの委員の皆さんに今の話を聞いていただいて、どう考えられるのかということをお願いしたい。

#### ○北村総務課長

それでは、委員の皆様にご意見をいただきたいと思いますが、どなたかどうでしょうか。

○百田委員

校区の見直しの件ですが、それぞれの今の小学校も、前々からの学校を2つ、3つの統廃合をして現在になっていて、それぞれの小学校に歴史もあり、文化もあって、こういう区割りになっているのは、行政区も含めて、一言で言えば、規模適正の中にちゃんと項目がありますので、そこで一番やってもらった方がいいのではないかなと思いますけど、そういった意味で野市の人口がどのように子どもたちの数が増えていくかということは承知していないが、東小学校も支援の学級が多くなってくると、全部の小学校もですが、キャパの問題等もありますので、その辺も含めて、また、いろいろと協議しながらやっていかないといけない。また、香我美中学校にしましても、香我美中学校の体育館は4分の1が野市町分ですので、それこそ、野市中へ行くより1分で香我美中に行けるような生徒もいっぱいいらっしゃると思いますので、その辺の校区の見直し、規模適正ということでいろいろと協議をしていかなければいけないのではないかと考えています。

○北村総務課長

ありがとうございました。合併以降、校区の見直しがあったということはあるですか。

○坂本教育次長

(野市町内は) ないと思います。

○北村総務課長

他にございませんでしょうか。

○中元委員

大変勉強不足で申し訳ないのですが、なぜ、この重複区というものができたのか、何かしら理由があって、例えば、この人口というか生徒数の割合で見たら、ぼこぼこって入れた方がいいだろうとか、何か理由があったと思いますが、その辺りを教えていただきたいです。

○坂本教育次長

合併当初から重複校区で、もちろん野市小校区と佐古小校区の境の地域を重複校区としていますが、野市小校区と東小校区の境にはしているのです、そこをどちらでも行けるようにしたということで重複校区を作ったと思いますが、どうしてこの範囲だけにしたのかという理由のところは分かりません。合併当初からこういう重複校区になっていた。

○山崎生涯学習課長

記憶では、野市町の昭和の合併のときですが、合併する前に佐古村、野市村、富家村、香宗村に別れていて、その境目が本来ありまして、そこはもともと田畑でした。田畑が境目で、そこに開発された場合に、土地の所有者の考え方によって、どちらに入るのか、当時はそういった話があります。昭和の合併後のときからです。そこから位置付けをされて住所地番を決めて、この境目をどちらにするかという話合いが当時された。その後、新しく開発がどんどん進んできたときに、当時は、例えば、農家をされている方の本家があって、横に家を建てるといったときには、境目でいきますと佐古分に入っていたとしても、母屋が野市分なら、野市に入りましょうかとかという話合いがされて

います。そこにもずっと歴代の歴史があった上での境目がどんどん決めていかれていたというふうに、記憶では資料があったと思います。

○北村総務課長

ありがとうございます。他に委員の方からご意見はございませんでしょうか。

○濱田市長

山崎課長の話はそうだろうと思います。私の記憶では、東小学校のときに重複校区があったのかとか、この東小と野市小の境のところから来ていた人は、ほとんどいなかったような記憶もありながら変わってきたのかなというのは分かりましたが、先ほど、百田委員のおっしゃったとおり、やはり、規模適正化の中で全体として考えたら確かに、香我美中学校のことも、中ノ村から住んでいる人からするとというのも分かりますし、ただ、今の実情として、野市町は、我々行政が思っているスピードよりも早く宅地と人が増えているという現状があるので、そこは委員の皆様にも、そういう声があったということを認識していただきたいと思いますし、規模適正化をやめたわけでもないで、そういうところにも生かしていただければなと思います。ありがとうございました。

○北村総務課長

ありがとうございました。この二つ目の議案につきましては以上とします。次、三つ目、中学校の部活動の地域移行についてということで、説明は学校教育課長からお願いします。

○小松学校教育課長

資料の3-1があると思います。学校部活動の地域連携、地域クラブ活動への移行の全体像ということで国が示したが、これは古い資料で、こういう休日の地域クラブ活動へ向けて、このような動きをしますということで、次のページを開いていただきましたら、学校部活動の地域連携に向けて合同部活動というような仕組みの大まかな流れがここに出ているところです。次に、資料の3-2を見ていただいて、これは令和6年10月時点の高知県の現状というところを示したものです。生徒のスポーツ活動の参加機会の確保ということで、現状、生徒数も平成24年から令和4年にかけて、約18%の生徒が少なくなっている。部員数にしても、平成24年から令和4年に向けて、部活動に入っている加入率も58%ということで、これも段々減ってきている。課題としては、やりたい活動がない、人数が少なくチームが組めないというようなことがありました。それで、学校部活動を合同チーム、拠点校部活動、地域クラブ活動にというような方に移行していけないだろうかということで、令和6年10月現在での合同チームが66チーム、拠点部活動が4部活動、地域クラブ活動が19クラブということになっていました。それが、次に、令和7年度の地域クラブ・拠点校部活動等の実施状況ということで、これが、最新の令和7年5月29日時点ということでしたら、香南市からも一つ、香南相撲クラブという地域クラブがあります。これを見ていただいたら数も41と増えています。拠点校部活動というのものも、各市町村でこういうふうに出てきているということで、若干増えつつあるというような状況です。それと、高知県における公立中学校の部活動における取組状況について、地図の方に示している資料になります。

もう1枚、本日、資料をお手元に配っていると思います。地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議ということで、これが国のスポーツ庁等で行われた会議の直近の概要です。今ま

で地域移行と言っていましたけど、3のところ、地域全体で連携して行う取組の名称というところですが、地域移行という名称は地域展開へ変更ということで、移行していくというところが、地域全体で展開していこうという考え方に変わってきたというところです。なお、1枚めくっていただきまして、今後の改革の方向性につきましても、地方公共団体が幅広い関係者の理解と協力の下、平日、休日を通した部活動を包括的に企画、調整して、地域展開を進めていくということ。国の方針としては、休日は令和13年度までに展開をしていきたいというようなこと。この改革の改革期間というものも、前期が令和8年から10年度までを中間評価として、後期が令和11年から13年度までというような形で進めていこうというのが最新の情報としてこれが出たところです。

#### ○山崎生涯学習課長

生涯学習課からの報告になりますが、全体の話は学校教育課長からありましたように、地域移行が地域展開に名前が変わったという話は、皆さんご想像のとおり、なかなか地域に移行するというものが、もともと令和8年度中にということで、当時、話がありましたけど、それも現実味がない話ということが国も分かってきて、変更しながら、何らかの形で地域に受け皿を構えてという話になったと思います。生涯学習課としては、学校側は学校の体制づくり、学校として、今後、部活をやめるか、やらないのかという話も含めた決断、それと、生涯学習課は受け皿づくりですから、受け皿についての報告ですが、令和5年度に、スポーツ少年団に、まずアンケートをとりまして、週の練習日数と部費がどれ程かということの調査、それと、学校側も部活動の月謝の一覧表を作って、書類上のマッチングをさせていただきました。令和6年度はできていませんが、令和7年度に向けて、今回、野球の団体と野市、夜須の合同でやられているクラブについて、受入れができないかということで、スポーツ少年団の野球団体との話し合いをさせていただきましたが、その指導者の育成という形で、小学校と中学校の野球部となると、やはりレベル感の違い、練習日数の問題、もともと中学校では週5、土日のどちらかを週4と足して5日、それを、今のスポーツ少年団で毎日できるかと、その時間帯の問題という話もあって、16時45分からできるかというとなかなかできないので、18時以降ではということの時間調整の話とか、幾つか、やはりハードルがありまして、それを、いきなり全部受け入れることは難しいということになっています。

スポーツ推進委員も29名います。その方々は、本来ならばスポーツを教える力がある方々になりますから、その方々とも、話し合いをさせていただきました。バドミントンについては、その競技性をもつのか、お遊びでやるのか、趣味でやるのかというふうに分けさせていただいて、ある程度、楽しみでやるならばということで、バドミントン部については、吉川、野市、香我美、いろいろなところにありますから、その受け皿という形はできるのではないかという話は、今、受けています。ただ、それが、具体的に本当に今みたいに、赤岡もバドミントンが中学校にありますけど、本格的な練習ではないので、そういうものであればとかいう前提条件はありますけど、そういう形ならばという話は上がっています。スポーツ少年団が、今、23団体ありまして、スポーツ協会が32団体あります。この団体についてのマッチングを、今年、実際に個別にあたっていくという話で、その前提条件として、どこまでなら受けれるかということになります。

それと、中学校の全国大会（全中）が今後、皆さんご存じの方もいると思いますが、全中の規模がどんどん小さくなってきています。それは、やはり学校の先生方が部活動の指導者でありながら、全中当日の向こうのスタッフになっている。それが離れていくと、その受け皿となる一般の市民がどこまで対応できるかという話もありまして、そこは、スポーツ団体というか、そういう組織が受けると

いう形で受けれる団体についてはある程度、残っていきますけど、そうではない、例えば、あまり有名どころではないスポーツについては、なかなか先が見えないという状況がありますから、そうなる  
と、日常の地域スポーツとして受け皿を構えていくかというふうには考えていますので、そこも含めて、団体と学校側の保護者、保護者の理解も必要になってきますから、その調整をしていく。ですから、最初にお話させていただいているように、令和 11 年度までにある程度、学校側の部活動をやるか、やらないか、この部活動だけを残すのかとかいうことを決定して、それに対しての地域クラブの受け皿はこれぐらいあるので、保護者もそうですけど、子どもも週 2 とかという練習でよければ、受け皿がありますよという形の報告を今の段階からしていくということで、そういうリストは、小学校側にはスポ少のリストは渡してきていましたが、今度は中学校も含めて、そういうリストを学校にお渡しして、受け皿として構えていただけますかと団体に話をするという形になると思います。ただ、個別で、香我美町はもともとソフトボールが盛んで、野市もそうだったが、ソフトボールのチームが幾つもあります。女子のソフトボールがもともと香我美中学校にあって、そこは、当時、お手伝いに行ったりということもありますので、個別でそこまで大きく全体的に移行するという話ではなく、日常の関わりの中でお手伝いができる範囲だったらということや、個別のその範囲というか、大きさが違うので、そこについても学校側の調整も必要になってくると思います。それと、もう 1 団体、個別の話を伺っています。剣道の話が上がっておりまして、今、野市の中学校、それと、スポーツ少年団の本部長もやられています先生が退職をされたら、私たちができることをやりますということで、剣道については、ある程度、前向きな話を伺っています。全体の話としては、団体に話してませんが、今後、個別に入らせていただいて、受けれるところは受けれる、そうでないところは申し訳ないけど決断をするということが必要かというふうに思っています。

それともう一点、文科系についてです。文科系については、英語クラブというのが香我美と野市にありますけど、英語クラブ以外は、うちの文化協会が 91 団体、社会教育認定団体と同じような団体が 29 団体あります。全部で 130 団体ありますので、そことのマッチングで大体クリアできるのかと、囲碁、将棋とかもありますから、そこも大丈夫かなという話で、そこも、学校側もそこまで地域移行の話として文科系については、学校も重きを置いていないところもあるので、そこも本当は学校との調整、重きを置いていないという言い方は、大会がたくさんあるわけではないので、そこはということになっていますけど、その地域移行は、文化も含めて移行をするということの、ある程度そこも決断が必要ではないかと思えます。決断側は学校という話と、うちは受け皿側というところの調整で、今後、関わっていきたいと思っています。

#### ○濱田市長

実は、日曜日に桜井つぐみさんと清岡幸太郎さんのレスリング大会があつて、そこに、まさに宿毛レスリングクラブが出ておりまして、当然、宿毛市というと、やはり子どもの数も少ないということがあるにせよ、そういった宿毛レスリングクラブというものがあつて、一つのクラブがやっているということが分かったのと、あとバレーボールでいうと、今、実際、中学校は香長中学校が強くて、そこは見てのとおり、クラブ移行されているということで、野市の小学校でバレーボールをやっていた子が野市中に行きながらも、バレーボールで行かれてるとかそういう話もお聞きすることがあるので、進んでいるってことは良かったと思います。国も多分、先ほど、山崎課長もおっしゃったとおり、もう少し簡単にいくと思っていたのではないかと私も思いまして、国に対しては、いかがなものかという思いもありますが、自分の中で一点、これは教育長か学校教育課長かにお聞きしたいという

か、私の世代で、例えば、同じ年ぐらいで学校の先生をやっている人、特に自分もスポーツをやったので、先生になりたいというより監督になりたくて先生になったというか、言い方がおかしいかもしれませんが、そういう先生になるイコール、部活動の監督になりたいという人たちの、そういう世代が多分、30代ぐらいまではいっぱいいるのかなという中で、先生方のモチベーションというか、先ほど剣道のお話で退職されたら地域に入ってくれるというのはすごいありがたいし、そういう人をもっと増やしていくことしかないのかなと思いつつも、今、現にやめる決断が現場レベルで本当にできるのか、相当、酷な話ではないかと思いますが、そこのところは実際に先生としての視点でいくといかがでしょうか。

#### ○三木教育長

実は、私は高校の採用試験を受けていました。高校で弓道部の監督をしたかったから。その次、美術の教師、順番からいうと高校で弓道の監督をやってインターハイに連れて行くということが大きな目標にあったので、高校の採用試験を受けたというのが一つ目の話で、次の年に高校の採用試験がなかったため、中学校の採用試験を受けました。だから、心情的にというか、考え方の中で、当時、自分の世代からその前後のことでいうと、部活動を学校で仕事する上でのウエイトとして大きく持っていたという人はいっぱいいると思います。ただ、きっかけがそこにあっても、実際のお給料をもらっている圧倒的な業務内容は学校で働き始めると、教科、学級経営、あるいは場合によっては生徒会とか、いろいろなその役割の方をやっていく中で、自分の中でもどんどんウエイトが変化していきます。そのウエイトが変化していく中で、やはり、部活をやりたいかといえ、そうはいつでも授業はないがしろにはできないということ、そんな中で、個人の中でも仕事を始めると大きく変化するというのが、私の中では思うところです。それと、今、この移行のことが出てきたときに、何年前にも教員にアンケートをとって、これに対する賛成、反対というか、どう考えますかというアンケートをとったときに、頭の中で思っているよりも、かなり多くの先生が賛成だった。だから、やはり、自分の仕事というもののの中で部活動というものが、感覚的に言えば、かなりボランティアで、その精神的な負担というものがアンケートをとると、実はストレスという声が想像以上に多かったです。今、現在においても、全部の学校でアンケートをとっているわけではないですが、あれこれ確認の声を聞く中で言えば、かなりの先生は、これが自分の職の中から離れていくということについては、実は賛成という気持ちの方が、今は圧倒的な割合だというふうに聞いています。

#### ○濱田市長

そういうことをお聞きするとよく理解できますし、分かりました。その中で、これから一つ自分が思うことは、来年度から、高校が私立を含めて実質無料化されていくということで、私立の学校関係者と話をすると、やはり、それをチャンスにして、今まで以上に部活動、文化系も含めて力を入れていきますので、中学の段階からそっちに行く人が増えていくのかという中で、やはり、山崎課長が言うように、本当にちょっとした健康維持というか、たしなむ程度でというような部活動に、本当に郡部ではなりつつあるのかなという、その中でも香南市がやや事情が違うのは、やはり、校区の話もありましたが、まだ、我々には子どもたちの数がありますし、それに、いろいろなことを思った若い保護者の方がいるので、そういったニーズを、どうバランスを取っていくのかということが大変だと思うので、やはり、粘り強くというか、現場の先生の声と、それと受け皿の受入れる側の体制をしっかりとってもらえたらなと思います。

○北村総務課長

そうでしたら、委員の方からどうぞ。

○森本委員

個人的な意見で申し訳ないのですが、今の状態だと、減らしていくことは仕方ないということで、確かに、スポーツ関係では指導者がどうしても必要なもので、怪我もありますし、そういったことでなかなか難しい。今までのあったクラブの状態から減っていつている状態なので、新しいクラブを増やすというところもなかなか難しいです。この辺りは、例えば、3、4人の生徒がこういうことをしたいと思っても、なかなか学校の方では難しい、どうしても先生も付けなければいけないということを今までにもお聞きしたり、子どもたちからも聞いたりもしていますが、ただ、やはり、子どもたちにとって、クラブ活動でスポーツにしても、文化系にしても、その放課後の時間を楽しみに学校に行っている子どもがたくさんいることも事実だと思いますので、その辺りを減らす方向ではなく、できる範囲で、せめて、そういった声を拾って、そういった少人数でもできるような活動、そして、先生がそこに張り付いていなければならぬのかどうかということがあまり分かりませんが、その辺りがもしクリアできるのであれば、そういったクラブを増やしていくという方向になっていただけたらと思います。

○北村総務課長

ありがとうございました。他に。

○亀川委員

ここまでのお話をお聞きして、ちょっと心配というか、学校の方が、令和13年度には将来どの部活を中心にしてやっていくというふうな選択が必要だということですが、期限を決めて、そこを何年にするかということの前倒して3年前ぐらいには予告をしないとイケないので、それが実際にできるのかというところをかなり考えておかないと、実際には、現状維持という学校がほとんどになりかねない。もう一つは、学校の方の事情としては、昔は部活動といえば、全員の教員が担当する。そうでないと負担がすごく一部に偏ってしまう。だから、必ず副顧問なり、何らかでは部活に関わるというところがあったが、その線が崩れてきているのではないかと。そうなったときには、部活動はできるだけやりたくないという先生が増えていったときに、学校としては、その中で部活動を運営しなければいけない。地域には、受け皿がないというような将来になってしまうと、非常に子供たちにとって不幸なことになる。そこを心配するところです。

○北村総務課長

ありがとうございました。他の委員の方でございませんでしょうか。

○百田委員

今日の総合教育会議で何か議題はありませんかということで、私がこれを言い出しましたので、中学校の部活動で教育的な配慮を含めて、また、働き方改革も含めて地域移行の話になっている中で、先ほどからも出ていますとおり、文科省を含めて考えるところが甘かったか、すぐにできるのではない

かということがあったのかと思って、なかなか難しい。小松課長からあったように、香南市でも完全な形なのは相撲。相撲は地域移行のクラブ活動ですが、全中へは出られるのですよね。例えば、サッカーは、1回戦で負けるような形でクラブチームばかりで、野市中のサッカー部もほとんど小学校からやっていないような子どもが中学校になって始めて、1回戦、2回戦で負けるようになって。中学校で全中にいけるクラブのチームはクラブの方で、そういった形で半分に別れて、野球も別れてる。そんなことがあります。

あと、例えば、野市中はいろいろできますが、吹奏楽は、3校が一緒にまとまって練習して大会にでるとか。今、50人以下でも全国大会行けるようになってきているのか。以前は、50人以上でないと全国大会に行けないとか吹奏楽はあったみたいですが、まあ、そういった形で一緒にやることができるかと。

あと、その指導者に関しても、なかなか、昼間の部活、午後の部活へ出られる人はいない。それをどうするかというと、24時間勤務の消防や警察、自衛隊、また、大学生もアマチュアでもトップレベルの人もありますので、そういった人の活用を含め、スポ少、スポーツ推進委員、スポーツ協会、スポーツクラブも絡んでやっていただけたらとは思っています。なかなか、部活の指導員までは、資格も取って、責任も重たくなりますので、二の足を踏む面があります。個人的なことになるが、今、香我美のソフトボールも、ボランティアで行ける人が行って、ノックして、指導してやろうというような形を取っていかうかなと。日曜日には、一緒に練習をするといったような形で進めていければいいかなとは思っています。

全国でも少子化の中で、3校、4校が合同で場所を決めてやる。それには、その場所へ無料バスで子どもを一緒に集めて、またバスで送る。そういった形の地域での部活動ということもやっているようなところもありますので、その辺も含めて、ゆるい形で、学校、家庭、地域の連携の中で進めていければいいのかなと思っています。

例えば、陸上もスポ少が三つありますが、中学校も四継とかマイルなんかのリレー競技、団体競技も集まれば、またできる、そういった面も含めて、いろいろと考えていく余地があるのではないかなと思います。

あと、ちょっと違いますが、体育館が暑いです。避難場所になっていますけど暑いです。今、地震が起こって避難場所に行けて、とてもではないができません。この辺も考量してしてください。最後は、部活動とは違った面ですけど、よろしくお願いします。

#### ○北村総務課長

ありがとうございました。他にございませんでしょうか。

#### ○濱田市長

百田委員ありがとうございました。先ほどの体育館の暑さというものは本当に切実というか、もうこの気温ですから、本当に練習中に具合が悪くなることは多々あるのではないかというふうに聞いていますし、やはり、そのところも国もこういうなかなか厳しい財政状況、厳しい中でというところもあります。そのところはいろいろ考えながらやっていけたらと思いますし、防災の観点も含めて必要であるということは承知しています。

#### ○百田委員

グラウンドも新しく土を入れたところは、まぶしくて子どもたちの目にどうかと心配します。

○濱田市長

そここのところは、教育委員会の方でお願いします。

○森本委員

自分の子どもたちは、スポ少に入っていました、自分自身がスポーツをしていませので部活動の内容とか、詳しく分からないところもありますけれども、今、現状を見ましたところ、郡部では、何も打つすべがないのかなというふうに見えたりもします。

子どもたちがアメリカの学校に行っていたことがありまして、小学校6年のとき、中学校と高校もですが、国も違いますし、何の参考にもならないかもしれませんが、アメリカの公立の学校においては、学校は15時とかで終わりです。そして、クラブ活動も、もちろんたくさんありますが、完全にクラブ活動は夜です。数も少なく、毎日、月曜日から金曜日までということではなく、クラブによりませんが、週に2日、3日、そして、2時間であるとか、そして、もちろん夜ですので、近所の子どもは、日本だと自転車で来ることができるかもしれませんが、もちろん親がある程度の責任を持って送り迎えが必要ということで現実的ではないかもしれません。そして、指導者については、もちろんボランティアではなく、大学生や社会人の方もいますけど、ちゃんと時給を払われて、何人も来ていらっしゃるという状態で、それがアメリカの公立の現状です。現に、スポ少でもバレー部も昔はもっと親御さんが協力的に連れてきたりしたが、子どもがどんどん少なくなって、指導者もしんどくなりまして、なくなったという状態がありますので、結局、中学校でクラブ活動するとしても、同じようなことが起きるのではないかという危惧もあります、現実的には、そういった方法しかないのではないかというふうにも思いました。

○北村総務課長

ありがとうございました。他にございませんでしょうか。

○山崎生涯学習課長

委員の言われるとおりで。学校側がという話を私もしましたが、もともと私たちの時代は、中学校は強制的にクラブに入らなければならなかった時代が、今、野市中学校では半分ぐらい、56%ぐらいだったと思うが、そういう話を聞いたときに、もう本当は、地域移行とか保護者に対する考え方をもちなさいと、いうことが出されていたのかもしれませんが。私の時代は、強制だったので、どうしても学校の先生方は子どもたちを、例えば、18時過ぎまで見なければならぬみたいなものから、もう移行はされているような、私の中では、気がしております。私が、お話をさせていただいたのは、全部、地域クラブの話です。今、こういうクラブ体制を作り上げてというのが、日本だけで、一方では、スポーツ教育の中では最高だったと思います。スポーツ少年団があって、学校の部活があって、高校でもあって、だからこんなにスポーツが強くなった、日本が強くなったのは、それは、絶対的な価値があったものだと思いますけど、それを国が、国としては、もうこの地域移行というか、学校の先生の働き方改革の中で、これを取り外すという考えを持っているという中で、それでも、あらがってやるかどうかは、これは政治的判断になります。だから、ここに市長がいますから、政治的判断として、地域スポーツとしてお金を入れて、指導者にも手当を出して、徹底的に子どもたちの受け皿を構えるというふうに行われれば、給料

の問題もある程度クリアになり、それと受けている先生方の補償の問題、きちんと面倒を見ると、例えば、こうなんスポーツクラブに、ある程度、手当も出して、そこに指導者を育成して、ということを作り上げるというふうな、責任も与えてやるかということの決断も必要だと思います。今のところでいきますと、生涯学習課は、地域スポーツがあるので、そちらに来ていただけませんかという話を進めさせていただき、どちらかという、欧米型に変えて、ある程度、18時、19時でやりたい方はどうぞ入っていただいといるところの、あまり責任を持たさないような団体ですが、日常の中で、スポーツをされたいという方がおられたら、大人と一緒にやりませんかということをお願いするというふうに、今は、そのように考えております。ただ、今後、他の市町村というか、県によっては、確実に地域スポーツとして、力を注ぐと、これは、宿毛もそうかもしれませんが、そういうふうにある程度、方向性が定まってきたら、お話もできるようになるかというふうに思っています。今は、現状与えられている中で模索しながら進めていくと、ただ、私が言うことではありませんが、やはり、学校側もクラブが減っていることも分かっているけれども、これでいいという体制で徐々に減らしていくのか、ある程度、決断の時期を決めるのかということがないと、保護者も困りますし、保護者も無くなるのが分かっていたら、例えば、うちでいうとアランチャのサッカーチームに入りますということで決断もできるので、なあなあ時間が長くなればなるほど、どうなのかというふうに思いますから、ある程度の決断が必要だというふうに私の方から何度も話しさせていただいたというふうに思っています。

#### ○百田委員

生涯スポーツとして、クラブは地域の中でやっていく方向にはなるとは思いますが、それを香南市から言うのはなかなか難しい、やはり、上から動いてもらわないことには、うちだけということにはならない。今、言った宿毛と土佐市とうちのこうなんスポーツクラブと南国、その辺りは、スポーツクラブを中心に、場所はありますので、できるかとは思っています。なかなか、すぐにドイツのようなスポーツの形に持っていくのは難しいのではないかと思っています。

#### ○山崎生涯学習課長

こうなんスポーツクラブも地域移行に対しての考え方を持っています。研修も受けましたし、ただ、今の体制では受けれないということです。それは、指導者がいないからです。地域スポーツという形で普及させる活動はしています。新しいテーマとして、子どもたちや大人にもスポーツの楽しみをということで事業を展開してもらっていますが、そこに指導者が、いつもいるわけではないので、他のクラブでは、指導者が複数人います。そういう位置付けでやっているというところもあるので、それは、組織として立ち上がった瞬間からまた違うものもありますが、そこまでする香南市がやるという話であれば、ある程度、指定管理の金額も増える要素も出てくるので、そこをどう考えるかという話です。百田委員が言われるように、地域移行の中で地域の方々がお手伝いをしていただいといることで、今は、それで何とか収まる方向でいいのかなと思っていますが、そこに頼りすぎると、その指導者が、もし駄目になった場合や、その人たちはボランティアでやっていた場合に、例えば、その人たちに事故が起きた場合はどうするかとか、そこも、あまりその人たちにおんぶになりすぎるとその存続も難しいので、私は、ある意味、責任という話をさせてもらいましたが、手当を出すとかという話を持たない限り、その地域で受けるという話は難しい。そうではなくて、地域スポーツとして、私たちの団体があるので、子どもたち

も参加させるとなれば、それは保護者の同意の下、その組織の中で運営できるかなというふうには思ってますけど、そういう、ある程度大きな組織化をしようとする、責任問題や手当問題というか、いくつか出てくると思うので、今のところその話をするとなれば、結構、時間と労力が必要だなというふうには思っています。

#### ○小松学校教育課長

地域移行が地域展開というふうになって、学校の方でも進めていくという場合は、中途半端に学校の方に役割を残すのではなくて、先ほどもあったように、期限を決めて、ここまでにもう地域に全て出すと。この部活動は地域だけれども、この部活動は学校に残す、例えば文化部は残すとなれば、やはり、なかなかやりにくい。出すなら全て地域移行でないと、やりにくいというような学校側の思いもあります。だから、例えば、令和13年度に全て地域移行するというので、もう順番に地域のいろいろなクラブに入っていくというような形で進めざるを得ないのではないかと、今、学校と協議をしているところです。

#### ○濱田市長

ありがとうございます。いろいろなご意見いただいて、いい議論になったと思いますし、国として、先ほど森本委員の話ではないのですが、我々、日本というのは、やはり体育であったわけで、それがスポーツに名前は変わったけど、今のところ、まだ体育で、体育からスポーツに切り替わる移行の混乱というか、物理的なシステムと、気持ちの切り換えの時期なんだろうなというのがあって、香南市長杯というものがいっぱいありまして、先日も、中学校の野球大会を5月に野市でやったときに、野市と夜須で野市中が30数名で夜須中が4名で、野市中の30名というのは、公立の部活動で一番多いとその場で聞きましたが、本来であれば、香南市でとらえると、1チームで香南市の野球チームにしたらと、今は、中学校が別なので、多分、夜須中の方が野市に練習に来てないですよ。夜須中学校でキャッチボールを4人でやられているのか分かりませんが。本当はそういうふうになっていって、もう少し切り分けて、そして、また、国が本当に中途半端にしないで、もっと責任を持って指導者の手当であったり、やってもらうようにできたら一番ですが、そこが、まだ、やや中途半端だなと思いつつ、でも、やはり、どこかで決断をするというか、働き方と、いかにスポーツ自体も、百田委員の言われるように生涯続けられるような土壌を作っていくというものと合わせて、この地域移行というものができていければなと思いますので、これからも、この会議もそうですが、教育長も含めて教育委員会とも連携してやっていきたいと思っています。

#### ○北村総務課長

ありがとうございました。まだまだ、ご意見たくさんあると思いますが、三つ目の部活動の地域移行につきましては、以上で終わります。

それでは、4番目のその他でございますが、事務局の方で特に準備しているものはございません。この機会に委員の方から何かございましたらお願いをしたいですが、どうでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして、第1回目の香南市総合教育会議を終了させていただきます。

どうもありがとうございました。